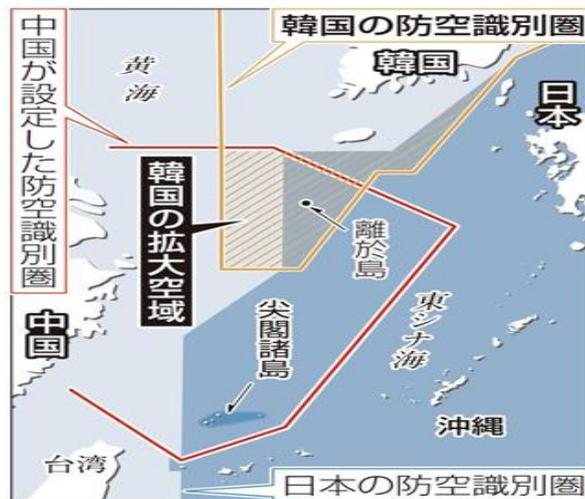


「離於島（イオド）」と「独島」 願望が先行する韓国の要求

日本安全保障戦略研究所研究員 藤井賢二

中国の防空識別圏設定

2013年11月23日、中国は他国の航空機が無届けで進入した場合警告を行う防空識別圏を東シナ海の広い範囲に突如設定した。中国が設定した防空識別圏は尖閣諸島の上空が含まれたため、日本はその撤回を求めたが、韓国も東シナ海の海中岩礁ソコトラ岩（韓国名「離於島」、中国名「蘇岩礁」）の上空が含まれたことに衝撃を受けた。韓国は、同年12月15日、これに対抗して韓国の防空識別圏を南に拡大してソコトラ岩上空を含ませた。韓国は「離於島」への強い関心を示したのである。



(出典:<http://www.sankeibiz.jp/express/photos/131209/exd1312090001000-p1.htm>2013年12月9日アクセス)

韓国の「波浪島」への執着

韓国のソコトラ岩周辺海域への関心は韓国が建国された1948年前後から見られる。1947年10月、韓国の有力紙『東亜日報』はこの海域に「波浪島（パランド）」があって日本が領有を主張していると警告し、またこの海域が好漁場であることを訴えた。「波浪島」は実在しない島であったが、この海域が日本の以西底曳網漁業の「とっておきの魚巢」であったことは事実であった。また「遠洋漁業」発展をめざす建国間もない韓国にとっても、未来の重要な漁場であった。

韓国は、1951年7月、米国に対して「波浪島」を日本領から除外して韓国領とし、サンフランシスコ平和条約に明記することを求めた。1951年9月23日付『東亜日報』には、同年9月に「波浪島予備調査隊」が「済州島南端に位置する我が国南端の領土である波浪島」に向かって済州島から向かったとあり、「波浪島」の実在すら確認していなかったにもかかわらず、韓国は米国への要請を急いだのである。

韓国を代表する知識人の兪鎮午（ユ・ジノ）は、対日講和条約に関する韓国政府の要望書の作成に参加し、「わが国の木浦と日本の長崎、中国の上海を結ぶ三角形の中心あたりの海中に『波浪島』という島があり、浅いために表面は波間に沈んだり現れたりするという

ことだ。(略) これはわが国の領土としてこの際確実にしておくのがよい」とする歴史家の崔南善(チュ・ナムソン)の言を聞いたため、「この島の名前を対日平和条約に明記させた時にはわが国は済州島よりもはるか西南方に領域を広げる」ことができると狂喜して対米要求事項に加えたと回顧している(「韓日会談が開かれるまで(上)」(『思想界』156号 1966年2月)。

韓国が米国に要請した時、在米韓国大使館員はその位置を問われても正確に答えられなかったことから、この要請は当然のように却下された。兪鎮午は、後に、「国家の権威を象徴する正式の外交文書に実存しない島の名前を書いて我が領土だと主張したのは取り返しのつかない失敗だった」と述べている(同上)。しかし翌1952年1月の李承晩ライン宣言ではこの海域に韓国の主権が及ぶことを宣言し、この年に始まり1965年に妥結する日韓会談(日韓国交正常化交渉)の漁業委員会でも、韓国は日本漁船のこの海域からの排除やこの海域での操業制限を執拗に要求したのだった。

ソコトラ岩と「離於島」の結合

韓国は、1984年3月、海洋探査事業の結果ソコトラ岩の位置を特定し、この暗礁と「離於島」とが結びつくことになった。そもそも「離於島」とは、貢物に乗せた朝鮮の船が済州島から中国に向かう航路の中程にあるとされた、済州島の民謡と伝説の中の架空の島の名称であった。水深約5mにある暗礁であるソコトラ岩は、国際法上領土と認められないにもかかわらず、ソコトラ岩を「済州島民謡の島である我々の数千年来の領土」とする一部韓国人の荒唐無稽な主張は、こうして生まれた。

国連海洋法条約では、暗礁を基点として領海や排他的経済水域(EEZ=沿岸国のみがその水域の資源を管理でき、他国は沿岸国の許可なしに資源を利用できない水域)を設定することはできない。しかし韓国は、21世紀になって、ソコトラ岩に「離於島海洋科学基地」建設を開始した。水中41m、水上36.5mのこの構造物は、2003年に完工した。韓国は、排他的経済水域画定交渉で中国に対して優位に立つため、中国の南シナ海での手法を真似て構造物を建設したと見られる。韓国の国立地理院は、「離於島海洋科学基地」建設に合わせて、ソコトラ岩の海図上の名称を「離於島」に変更することにしたという。

これに対して中国は、「韓国の一方的な行動は何ら法律的な効力を持たないと」警告した。このように、韓国のソコトラ岩周辺海域への関心は建国当初は日本に対抗したものであったが、現在は中国を意識したものになっている。

韓国にとっての「離於島」

以上の状況の中で防空識別圏問題は起きた。韓国の有力紙『朝鮮日報』は、韓国の防空識別圏拡大を1951年の韓国防衛識別圏設定以来「62年ぶりの正常化」と述べた(2013年12月9日付)。韓国は、ソコトラ岩のかすかな伝聞をもとに架空の「波浪島」の領有を要求した1951年の認識が「正常」だというのである。

韓国の現行の中学校社会の教科書(志学社)には、「伝説の島離於島が海洋領土前哨基地として生まれ変わった」というページがあり、「離於島」は「海洋領土としての国家的海洋インフラとして浮上している」と記されている。この「海洋領土」という耳慣れない言葉こそ、外部の諸勢力に翻弄されてきた韓国の「見果てぬ夢」なのだろう。同じく志学社の高校地

理地図帳では、「離於島総合海洋科学基地」に「済州(チェジュ)特別自治道西帰浦(ソギポ)市大静(テジョン)邑」という地名を与えている。

以上述べてきた「離於島」問題には、まず願望や想念を打ち出しそれに従って現実を解釈し変更しようとする韓国人の思考方式がよく現れている。この思考方式は、「独島（竹島の韓国名）は日本に奪われた最初の朝鮮の領土である」という虚偽をふりかざして日本に譲歩を迫る、竹島問題での韓国の主張にも見られる。日本人が向き合わねばならないのは、韓国のこのような思考方式なのである。

（本稿は、2014年3月15日付『山陰中央新報』掲載の拙稿「談論風発」に加筆したものである。）